新　刊

□ Westerkamp C. and Demmelmeyer H. : **Leaf Surface of Central European Woody Plants** 557 pp. 1997. Gebruder Borntraeger Verlagsbuchhandlung, Berlin. DM168.00.

植生調査の際の花や果実のない植物の同定，葉の化石の同定，葉類生薬の鑑定，さらにはまた犯罪捜査における植物鑑定等，葉ときにはその断片だけから植物の同定が必要な場合がある．本書はそういった目的にもかなうように書かれた本で，ヨーロッパ中部の主要な広葉樹300種について，葉の表面の微細な形態を走査型電子顕微鏡写真と記載で示したものである．葉の表面の微細な形態としては，毛，気孔，表皮細胞の輪郭，細胞壁の模様等に注目している．もちろん葉の全形や脈系についてもひととおりの記載は与えられている．微細構造も含めた葉の形態による検索表も作ってある．

本書はスタイルがユニークである．B5版の本であるが，本を横向きにしてページを上下に開いて使うようになっている．上のページには葉の表面の走査型電顕写真のプレートが，下になったページには，形態の記載がある．しかも，左のカラムはドイツ語，右のカラムには英語になっている．記述内容は同じである．記載は英語だけで十分なように思う．空いたスペースを工夫すればもっと多くの種をあつかうことができる．

実感としては，本書のような情報で属まではたどりつくが，種までとなると難しい場合が多いと思う．しかし，このような地道なデータ作りには敬意を表する．　（寺林　進）

□ Roth I. : **Microscopic Venation Patterns of Leaves** 196 pp. 1996. Gebruder Borntraeger Verlagsbuchhandlung, Berlin. DM168.00.

本書は，南米のベネズエラーギアナで採集されたRollet-collectionについての一連の植物形態学的研究の最後の一つとして出版されたもので，Roth博士が脈系について記載している．高度に発達した葉脈（脈系）は重複受精と同様に被子植物を特徴づける重要な形質の一つで，実に幅広い多様性を示し，種属の鑑別の有効な手掛かりとして，前世紀より詳しく研究され，現生種のみならず化石の鑑定にも応用されてきた．

本書では，まず脈系全体，及び鑑別点として重要な網目や脈の末端の形状について類型化し整理している．特に脈系の細部に注目している．次ぎに，分類群ごとに（アルファベット順に）記載を行っている．扱っているのは南米のベネズエラーギアナ産の双子葉植物の30の科である．材料はすべて脈系が明瞭になるよう葉肉の部分は綺麗に透明化されている．記載は詳細な観察に基づいてなされており，扱った種数の多い科では検索表もついている．この教科書によって南米のこの地域の植物については，脈系からかなり正確に種や属の同定が可能になると思われる．記載のあとに引用文献，植物の現地での名称，学名等の索引がついている．植物形態学者，植物分類学者，生態学者及び南米の植物に関心のある者にとって重要な情報が得られるものと思う．　（寺林　進）

□岩槻邦男：**東京樹木めぐり**　290 pp. 1998. 海鳴社．¥1,600.

都区内の社寺，庭園32箇所の訪問記である．随筆的なものだが，植物研究者の目に東大植物園長として運営に苦労した体験が加味されて，いわゆるナチュラリストの作品とは一味ちがう雰囲気がある．同じ植物園でも東大植物園と新宿御苑や国立科学博物館植物園の予算規模や設備をくらべてため息をついたりしている．東大植物園の章だけで全体の1/4を占め，在職中の様々なできごとが語られている．ニュートンのリンゴやメンデルのブドウにまつわるはなしなどは，学術交流からクローン生物，標本の歴史的意義にまでおよんでいる．本書を読んでからこれらの施設を訪れれば，これ迄と違った見え方をすることだろう．目次が場所別，施設別，植物名別と三通りあるのは，読者の関心に応じて情報提供をしようという著者の配慮である．

（金井弘夫）